



ほうさ 第9号

1982年2月

名古屋市蓬左文庫

Nagoyashi Hōsabunko

屢示風より

名古屋の古版本展

—江戸時代の尾張版—

2.6(土)~3.28(日)

印刷事業が学術・文化の進展に伴うことはいまでもなく、近世封建体制を確立した徳川家康も、慶長年間、その文教政策の一環として、和漢の古典をさかんに開版した。続いて元和・寛永から万治・寛文年間には、刊本の種類や数量も次第に増加し、さらに中期以後は、江戸・京・大坂の三都のほか、近世的地方版も出現するようになった。尾張においても初代藩主義直以来、学術を重くみて奨励をかさねた結果、多くの学者や文人を輩出し、江戸時代 300年に和・漢・洋の各方面にわたって学芸が発達・普及するに至った。このような背景のもとに、名古屋の出版業はいちじるしく栄え、地方都市としては異例ともいえる進展を遂げた。城下の目貫き通り、本町付近には、風月堂・永楽屋(東壁堂)などを代表とする書店が集中し、三都の業者とも提携して、活発な営業ぶりを示した。出版物の種類は、学術書・通俗書をあわせて多種多様に及んだが、これがいわゆる尾張版で、有名な本居宣長の「古事記伝」、葛飾北斎の「北斎漫画」、岡田文園らの「尾張名所図会」などのほか、河村秀根の「書紀集解」松平君山の「本草正論」、吉雄常三の「遠西観象図説」、伊藤圭介の「泰西本草名疏」など、名著といわれるものが少くない。珍しい例では「輿地紀略」のような蘭書の復刻も行われた。なお、それとは別に、日本一の貸本屋「大惣」などもあり、文運の盛況をものがたっている。

以上の尾張版を大別すると、一般書肆(本屋)発行のもの、編著者の私家版、尾張藩による官版(藩版)の三種になる。もっとも、私家版にも書店経由で発売されたものがあり、また官版はいわゆる明倫堂版を意味し、天明3年(1783)に開設された藩校明倫堂の教科書用に復刻された漢籍類で、天明7年の「群書治要」はじめ、およそ10種類にのぼるが、木活字版の多いことを特色とする。明倫堂督学(学長)冢田大峰の「昇平日新録」も木活字版で、私家版ながら準明倫堂版といえるかも知れない。これには、版下に相当する大峰の自筆稿本もそろっている。なお、「書紀集解」などには、使用済みの版木の一部が現存し、あわせて展示されている。

「名古屋の古版本展」出品目録 (Ⅲ、明倫堂版は略。)
 (蓬左第3号参照)

I. 書肆(本屋)の出版物

1. 朱子策問 須賀誼安 藤屋伝兵衛・沢吉兵衛
 (相合版) 延享元年(1744)刊 1冊
2. 伊川先生顔子所好何学論 須賀安貞
 藤屋吉兵衛(相合版)
 明和7年(1770)刊 1冊
3. 本草正詔 松平秀雲 風月堂(風月孫助)
 (相合版) 安永5年(1776)刊 6冊
4. 史記律書曆書補註 松永徳栄(国華)
 風月堂(風月孫助)(相合版)
 安永8年(1779)刊 1冊
5. 歳華詩料 河村益根 藤屋吉兵衛(相合版)
 安永10年(1781)刊 2冊
6. 暢園詠物詩 岡田挺之(新川) 永楽堂(永楽屋東
 四郎) 寛政10年(1798)序 4冊
7. 唐宋八大家文楷 石川安貞(香山)
 本屋久兵衛 寛政13年(1801)刊 3冊
8. 女誠 樋口邦古 永楽屋東四郎
 享和2年(1802)刊 1冊
9. 画本夢の世 杏花園主人 風月堂
 享和3年(1803)刊 1冊
10. 物品識名 水谷豊文 永楽堂(付、東壁堂蔵版
 目録) 文化6年(1809)刊 2冊
11. 左氏伝蒙求 樋口邦古 永楽屋東四郎
 (相合版) 文化8年(1811)刊 2冊
12. 囊中錦心 勾田台嶺 昭華堂(松屋善兵衛)
 永楽屋東四郎(相合版)
 文化11年(1814)跋 2冊
13. 伝神開手一笔画譜 葛飾北斎 永楽屋東四郎、
 (付、東壁堂蔵版画譜画手本目録)
 文政6年(1823)序 1冊
14. 校訂伊勢物語図会 永楽屋東四郎 美濃屋伊六
 (相合版) 文政8年(1825)刊 3冊
15. 滑稽駅路梅 石橋庵増井 松屋善兵衛・
 玉野屋新右衛門・本屋忠三郎(相合版)
 天保3年(1832)刊 3冊
16. 北斎漫画 12編 (永楽屋)
 天保5年(1834)序 1冊
17. 尾張名所図会 前編 岡田啓等編 菱屋久兵衛
 ・菱屋久八郎 天保15年(1844)刊 7冊
18. 古事記伝 本居宣長 永楽屋東四郎(付、東壁
 堂製本略目録) 天保15年(1844)刊 48冊
19. 須磨日記 香川景周等 美濃屋伊六・
 美濃屋文次郎 弘化4年(1847)序 1冊
20. 二家対策 村瀬鯉校 奎文閣(永楽屋正兵衛)・
 慶雲堂(万屋東平) 嘉永5年(1852)序 1冊
21. 尾張英傑画伝 小田切春江 文華堂
 嘉永5年(1852)序 1冊
22. よし此名婦の里 皓井園山人 井筒屋正右衛門
 ・井筒屋文助 慶応2年(1866)刊 6冊

23. 狂俳冠句撰集楽 初編 石橋庵無事老
 万卷堂(菱屋久八郎)(付、蔵板略目録)
 刊 1冊
24. 落嘶恵方棚 小野秋津
 万卷堂(菱屋久八郎) 刊 1冊
25. 敵討かちかち山
 井文(井筒屋文助) 刊 1冊
26. えほん十二月
 井文(井筒屋文助) 刊 1冊
27. 猿ヶ島敵討
 井文(井筒屋文助) 刊 1冊

[参考]

- 名古屋書林蔵板目録 上 明治3年改正
 明治4年(1871)写 1冊

II 私家版(個人蔵版、書肆発行本を含む)

28. 雅言仮字格 市岡猛彦 榎園(市岡猛彦)社中蔵板
 製本所 松屋善兵衛
 文化11年(1814)刊 2巻1冊
29. 孝経司馬温公指解 神塾世猷校刊
 文化13年(1816)刊 1巻1冊
30. 昇平日新録 冢田大峰〔雄風館(冢田氏塾)〕
 文化4年(1807)序 14巻6冊
31. 作詩質の 冢田大峰述・冢田秀校 雄風館(冢田
 氏塾)蔵板(付、雄風館著書目録) 永楽屋東
 四郎等発行、文政3年(1820)上木、同4年(1821)
 識語 1冊
32. 江尾往還蹤 冢田大峰 雄風館(冢田氏塾)蔵版
 (付、著書目録) 文政4年(1821)序跋 2冊
33. 随意録 冢田大峰 雄風館(冢田氏塾)蔵版(付、
 著書目録) 文政12年(1829)刊 8巻8冊
34. 遠西觀象図説 吉雄常三(南阜) 觀象堂(常三)
 蔵版 文政6年(1823)序、識語 3巻3冊
35. 泰西本草名疏 伊藤圭介訳 花繞書屋(圭介)蔵
 版 文政12年(1829)刊 2巻・付2巻 3冊
36. 本草会物品目録 嘗百社編 嘗百社蔵梓
 天保6年(1835)刊 1冊
37. 洋字篇 伊藤圭介 花繞書屋(圭介)蔵版
 天保12年(1841)刊 1冊
38. 嘆咭嘲国種痘奇書 伊藤圭介 花繞書屋(圭
 介)蔵版 天保12年(1841)刊 1冊
39. 万宝叢書硝石篇 伊藤圭介訳 花繞書屋(圭介)
 蔵版 嘉永7年(1854)刊 3巻・付1巻 3冊
40. 輿地紀略(ライデン版復刻) 伊藤氏花繞書屋
 蔵版 安政5年(1858)刊 1冊
41. 暴瀉病手当素人心得書 伊藤圭介訳 花繞書
 屋(圭介)蔵版 文久3年(1863)刊 1冊
42. 和漢助辞通解 榎園(田中寅亮)蔵板 永楽屋東
 四郎・永楽屋太助・万屋東平等発行
 嘉永2年(1849)刊 1冊
43. 書紀集解 河村秀根 葎庵(秀根)蔵板
 江戸末期(天明5年)序刊 30巻20冊

[参考]

- 校正古事記 植松茂岳校 尾張徳川氏蔵版
 明治8年刊 3巻3冊
 付、出版願書 版權免許状 各1通

蓬左文庫の蔵書印

その7. 「張藩図書」と「内府蔵書」

織 茂 三 郎

尾張国を尾州あるいは張州と称するように、尾張藩を略して「尾藩」または「張藩」ともいうが、「張」字を用いるのは、いずれかといえば漢学者ごのみである。尾張藩の文庫は、初めは藩祖義直の個人的な所有であったが、二世光友のとき、書物奉行の職制が設けられ、公けの意味をもつようになった。したがって「張藩図書」印記は

表向きのものであるが、今までに紹介してきた印記にくらべると、その用例はあまり多くない。これに対して「内府蔵書」の方は、藩主の手元に置かれたものようであるが、この印記も少ない方である。印のサイズは、前者が45×21mmの長方形、後者は48mmの方形。念のために蛇足を加えると、「内府」とは普通「内大臣」を意味するが、この場合は、尾張藩ないし尾州家の蔵(内庫)と解される。

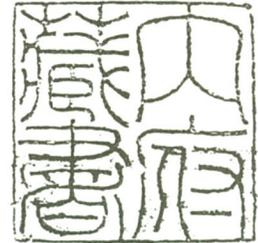
なお、書庫は、名古屋城二の丸庭園内のものを主とし、同じく二の丸の西北隅に建てられた二階造りの迎涼閣も書庫として用いられ、また、江戸市カ谷の藩邸内、その他数カ所にあった。

前回(その6)、「尾張府尹廬印」について若干の考証をこころみだが、「尾張徇行記」春日井郡大曾根村の項に「此村落ハ府下ノ町ツヅキニ付、府尹ノ支配ニ属ス」とあり、府尹は町奉行、府尹廬は町奉行所であることが明確となった。

(蓬左文庫調査研究員)



「張藩図書」



「内府蔵書」



蓬左文庫の蔵書群 — 3 —

〈尾崎良知旧蔵書〉

勤王の士として知られる尾崎良知(1840~1901)の旧蔵書で、190部(1906点)に及ぶ。蔵書番号は34から39(34・36の一部は除く。なお、「蓬左No.7」において34~40としたのは誤記)。ほとんどすべてに「尾崎氏蔵書記」(朱)という蔵書印がみられ、あわせて「尾崎良知遺書」(朱)と捺印されたものも散見される。内容は、「十七史」300冊、「十三経注疏」70冊など、大部な漢籍が多い。「朱子語類」や「四書集註大全」のような蓬左文庫旧蔵書(明治初年払出本)や、染井文庫旧蔵書、白河文庫旧蔵書なども含まれている。なお、良知は、幕末動乱期に尾藩主慶勝の側近として活躍したのち、常盤村(現昭和区)に隠棲し、塾を開いて儒学の道に専念する一方、徳川家の顧問ともなっていた。蔵書は、大正年間か昭和の初めごろ入庫したものと考えられる。

出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S.50年刊)	3,500円	日本の古典<蓬左文庫図録>(S.52年刊)	200円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S.51年刊)	4,000円	蓬左文庫・源氏物語図録(S.53年刊)	300円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(S.51年刊)	2,500円	蓬左文庫所蔵古地図複製(S.55~56年刊)	
尾崎久弥コレクション目録第一~三集		No.1~No.8	各 1,800円
(S.52~55年刊)	各 1,500円	No.9(尾張志付図)知多郡	1,800円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S.53年刊)	2,000円	名古屋叢書三編第12巻(S.56年刊)	3,000円
名古屋叢書続編 索引(S.47年刊)	700円	同 第8巻(近刊)	
名古屋叢書続編総目録(S.44年刊)	400円	張州年中行事鈔他二編	3,000円
善本解題図録第一~三集(S.55年再版)	各 300円	同 第16巻(近刊)	
蓬左文庫重要文化財図録(S.52年刊)	200円	横井也有全集上	3,000円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

★本文庫所蔵古地図の精密な複製を作成し、希望者には頒布しています。

★「名古屋叢書三編」(20巻・付1巻予定)の第1回配本を頒布中です。ただ今、第2・3回配本を準備していますが、昭和57年2月末~4月頃に頒布いたします。

▷▷▷ 利用ご案内 ◁◁◁

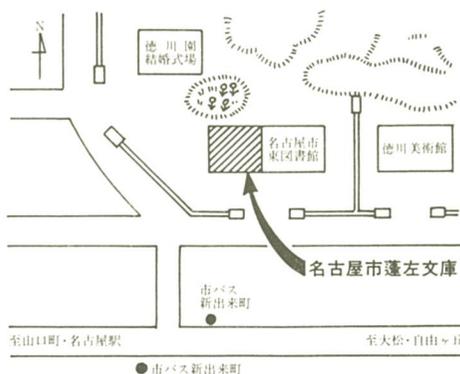
- ▷開館時間 午前9時30分~午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
- 祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
 (月曜 " " 月・火休館)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
 (閲覧料) 普通図書 無料
 重要図書 有料(1部100円)
- ▷展示 常時蔵書の一部を展示
 (特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち保存上影響のないものについて複写サービスを行ないます。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(市バス 新出来町 北 100m)
 山口町 東 500m)



「蓬左」第9号 ☆昭和57年2月6日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)
 ☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷(東区泉2-3-18)